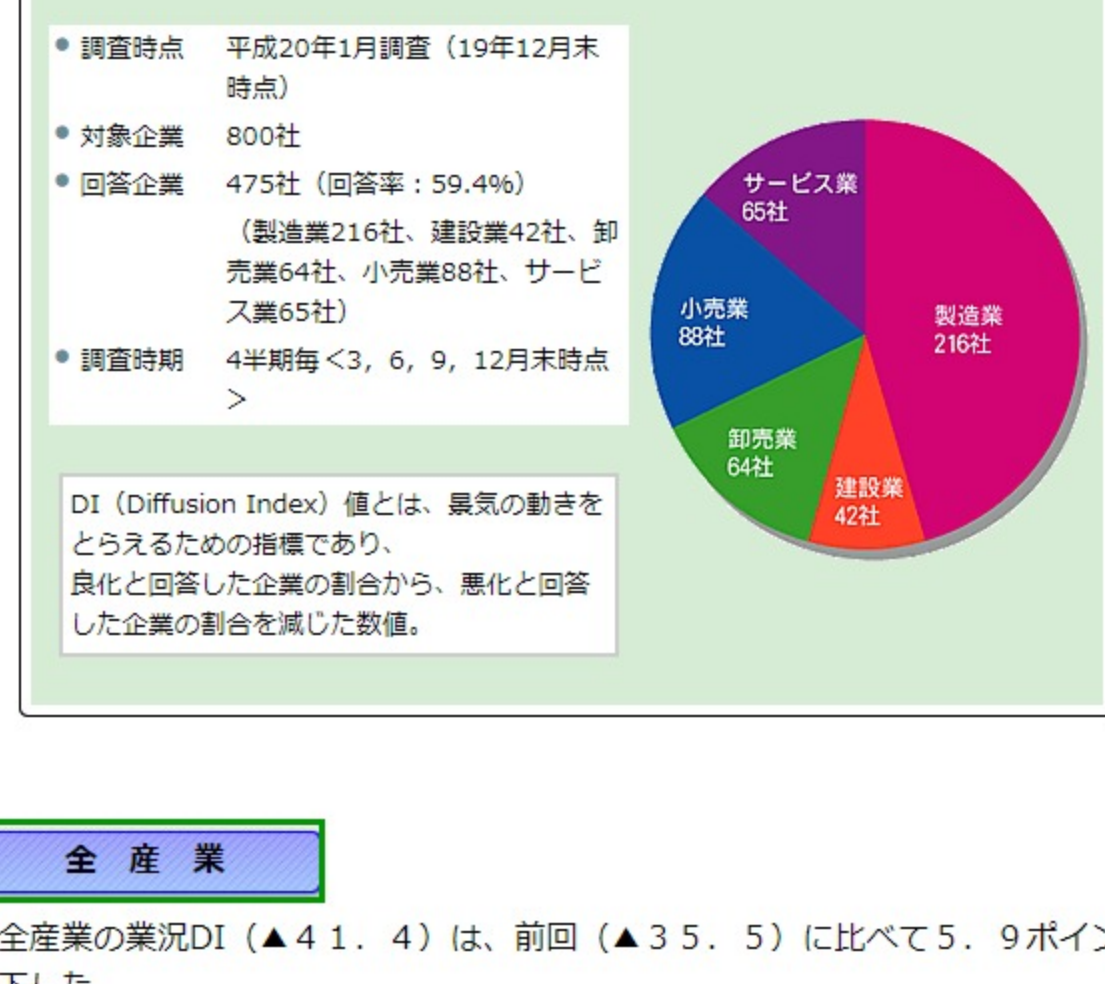


業況の改善傾向に足踏み状況が続く
先行きはわずかに改善を見通しているが、慎重な見方が続く



全産業

全産業の業況DI (▲41.4) は、前回 (▲35.5) に比べて5.9ポイント低下した。
 業種別では、製造業、卸売業、小売業のDIは横ばいを示した。建設業のDIはわずかに悪化を示し、サービス業は悪化を示した。
 DIポイント低下は、原油高、原材料価格上昇を背景に個人消費や企業収益の低下が主な要因と思われる。3か月先見通しは製造業が横ばいを見通し、非製造業はわずかに改善を見通しているが、引続き原油・原材料価格動向、公共事業の発注量等の不安要因がみられる。また、原油価格高騰と原材料価格の上昇を製品価格に転嫁できず収益に影響を生じているとの回答が多かった。

全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
12月末時点	-41.4	-32.9	-44.4	-27.1
9月末時点	-35.5	-34.0	-40.2	-24.6
前回比	-5.9	1.1	-4.2	-2.5

全産業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	9.1	9.8
悪化	50.5	45.3
DI値	-41.4	-35.5
前回比	-5.9	-9.4

全産業の業況3か月先見通し

業況	DI値
良化	7.8
悪化	38.5
DI値	-30.7

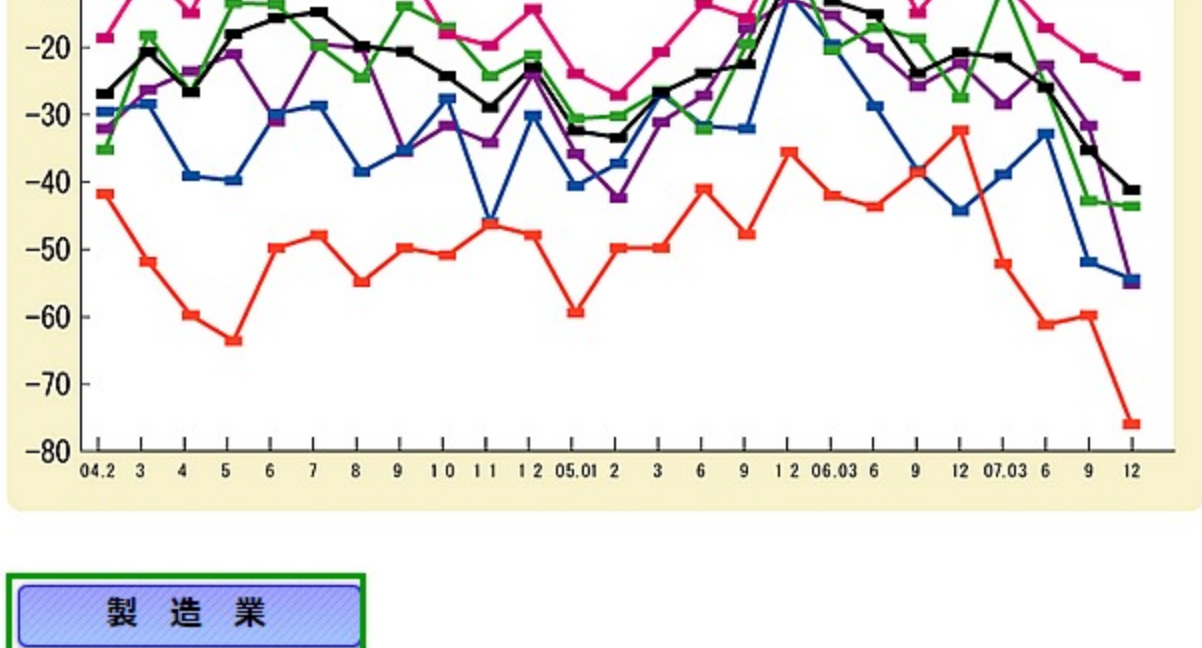
製造業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	14.4	15.5
悪化	38.9	37.3
DI値	-24.5	-21.8
前回比	-2.7	-4.5

非製造業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	4.6	5.2
悪化	60.2	51.8
DI値	-55.6	-46.6
前回比	-9.0	-13.5

業種別業況DI値推移グラフ



製造業

業況DI値	業況
前年比	-24.5
先行き	-22.7
前回比	-2.7

業況・売上・資金繰りはいずれも横ばいを示し、採算はわずかに悪化を示した。
 業種別にみると「精密機器」の業況はプラスに転じ、前回比では「酒造」「織物」「縫製」「木材・木製品」「鉄鋼・非鉄」「輸送用機器」「プラスチック」が改善傾向を示し、「食料品」「一般機械」の業況はわずかに悪化傾向、「ニット」「印刷」「医薬・土石」「金属」「漆器」は悪化を示した。「電気機器」は横ばいを示している。3か月先見通しは、業況は改善傾向を見通し、売上・採算・資金繰りは横ばいを見通している。業種別にみると「酒造」「縫製」「木材・木製品」「印刷」「医薬・土石」「金属」「プラスチック」の業況はわずかに改善を見通し、「食料品」「鉄鋼・非鉄」「精密機器」「漆器」は横ばいを見通している。一方、「織物」「ニット」「一般機械」「電気機器」「輸送用機器」は悪化傾向を見通している。

対象企業	354
回答企業	216

自由意見より

- 業種的に季節的要素による活発化を予想しております。【食料品】
- 運賃等の経費が上昇した。【食料品】
- 原油を地の真材の値上りが経費(収支)を圧迫！【原油】
- 資金繰りについては、今までよりも業界での借入と、貸・借払いを容認してきたが、再度契約をし契約とおりの実行をお願いしたら、資金の回収が促進され始めた。【織物】
- 重油高の為、経費が増加している。【織物】
- 天候の変化と需要の変化が重なり、受注が減ったため売上も減少し、苦しい年となり今後も厳しさが予想されます。【縫製】
- 昨年より中国製品と競合しない製品作りに変更した。【縫製】
- 原油価格の高騰により、原材料が値上りしているため、販売価格を見直しなければならなくなってきた。【木材・木製品】
- 資金繰り環境の悪化を懸念している。経営努力をしても外的要因による悪影響は回避できず厳しい結果となっているが金融機関等は経営状況内容を数値のみでデジタルな評価しか行わず、結果が悪ければ単純にランクを下げる一金利が一方向に上げられる→元金返済の負担圧力が溜まり、さらに厳しい経営を強いられるという悪循環に陥っている。【木材・木製品】
- 悪化【木材・木製品】
- 関連企業とのつながりが何とかなりしているが単体ではどうにもならない状況です。【木材・木製品】
- 年度末が近づき受注が増加しています。【木材・木製品】
- 業界再編第2弾が行われそうです。【木材・木製品】
- 原材料、石油の値上りが収益を圧迫しています。【印刷】
- 諸原料の高騰により価格転嫁不能、採算悪化してよい案件全くなし。【印刷】
- 原料材が何れも値上りしており、価格転嫁ができず困っている。このままでは悪化の可能性もあり。【印刷】
- 最悪の業界になってしまいました。もうコスト削減も限界にきています。低価格入札がとまりません。【医薬・土石】
- 関東東京都市部と地方の格差が拡大し、競争の激化による単価の超低下により採算がとれず自動努力も限界ある。金融機関は貸はしなくなって、不良債権(生コン)からはずさされる先に対する制度資金導入の見直しが必要である。【医薬・土石】
- 石油の価格上昇により増々悪化になると思います。【鉄鋼・非鉄】
- ガス代、灯油代、シナー塗料代など主な経費が軒並み上がり、業ではない。【金属】
- 高材価格の上昇を売価に転嫁しにくく値上の了承を得るのに時間がかかり、採算性の悪化が増大している。【金属】
- 公共事業の減少、鋼材高騰の値上りと建築確認の遅れなど重なって大変である。【金属】
- プラスチック材料、ガソリン・灯油等の燃料費の高騰により経費が上昇し今後の資金繰り心配です。【電気機器】
- 受注の減少と受注単価の低下にて採算が取れず、社会保障その他公的負担に耐えられず、事業所閉鎖等がさらに進む。【電気機器】
- 鋼材を中心とした鋼材価格の高騰が採算不足を拡大させていると懸念。米連米連の後退で、景況下落懸念がある。【輸送用機器】
- 爆発先行りをしてみると、来年は悪化の方向になると聞くことが多いが、本当なのだろうか？【精密機器】
- 業況・売上高率、比較的横ばいで推移すると思われます。【精密機器】
- 原材料費上昇分を受注単価に反映させられない。【精密機器】
- 原油の高騰により、副原料の金が1.5~2.0%も価格上昇している為、利益率を低下させてきている。受注状況は良好。【精密機器】
- 重油価格の高騰なる値上げにつき採算が悪く、月2度も重油価格値上げが起きている状況である。【プラスチック】
- 同業間の単価競争が激しい。【プラスチック】
- 年内2度の原料値上げの際、受注内容が悪化し、今後も続く見込み。【プラスチック】

建設業

業況DI値	業況
前年比	-76.2
先行き	-54.7
前回比	-16.2

業況・売上はわずかに改善を示し、採算・資金繰りは横ばいを示した。業種別にみると「土木」「建築」の業況の前回は悪化傾向を示した。3か月先見通しの業況は、売上・採算はわずかに改善を見通しているが、資金繰りは横ばいを見通している。業種別にみると「土木」「建築」の業況は改善傾向を見通し、資金繰りは横ばいを見通している。

対象企業	72
回答企業	42

卸売業

業況DI値	業況
前年比	-43.8
先行き	-26.5
前回比	-0.8

売上はわずかに改善を示し、業況・採算・資金繰りは横ばいを示した。業種別にみると「飲食料」「鮮魚」「機械器具」「建築材料」の業況はわずかに改善を示し、「衣服」「青果物」は悪化傾向を示した。3か月先見通しは、業種別にみると全業種で業況・売上・採算・資金繰りのいずれもわずかに改善傾向を見通している。

対象企業	106
回答企業	64

自由意見より

- 市内、町内の自営個人店が減少したが、量販店の対応を強化している。【青果物】
- 地方での業況の改善は無理。【機械器具】
- 先3ヶ月は、住宅着工低下にともない厳しい状況と思われまます。【建築材料】
- 中小工務店の倒産多発予想。【建築材料】

小売業

業況DI値	業況
前年比	-54.6
先行き	-36.4
前回比	-2.5

業況・売上・採算・資金繰りはいずれも横ばいを示した。3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのいずれも悪化を示した。業種別にみると「衣料」「飲食料」「家電品」「自動車販売」の業況は改善傾向を見通し、「家具・建具」の業況は横ばいを見通しているが、「中小・建具」の大型規模店の業況・売上は悪化を見通している。

対象企業	161
回答企業	88

自由意見より

- 原料上昇に伴う単価の上昇を売価に反映できない。【中小スーパー】
- 非業に苦しくなってきました。【衣料】
- 原材料、包材、人件費がどんどん値上げされて、一度は値上げしても、販売価格は何回も値上げできないので経営がとて大変です。【飲食料】
- 各種包装費の増加および猪肉の品薄から価格が急上昇した。【飲食料】
- 消費者が生活防衛に入り、ますます飲食や酒類の支出をカットし始めており、苦しくなりつつある。【飲食料】
- 今年の正月は、車も少なく、帰省する人が本当に少なくて静か初売りでした。【飲食料】
- 規制緩和により大半が有利な状況となり中小は厳しさが増してきていると思う。【飲食料】
- 正月はふる里に帰るお客が少なく、元旦より販売する店が増加。商店街は売出ししても活性化なし。【飲食料】
- 値がいせいで今後の雰囲気悪い。値を下げてでも、需要が盛上らない。【家電品】
- 原油急騰の結果、製品値上により、ユーザーは売上(地元企業)、商販(個人)が伸びないが、シビアな対応によって地域経済はさがる懸念が予想される。【自動車販売】
- 金澤地方は特に公共事業が少く採算性もく車用購入もく販売が多く、大変である。【自動車販売】

サービス業

業況DI値	業況
前年比	-55.3
先行き	-38.4
前回比	-23.5

業況・採算・資金繰りは悪化傾向を示し、売上は横ばいを示した。業種別にみると「観光旅館」「タクシー」「運送」「情報サービス」の業況はいずれも悪化を示した。3か月先見通しの業況はわずかに改善を見通し、売上・資金繰りは横ばい、採算はわずかに悪化を見通している。業種別にみると「観光旅館」の業況・売上はわずかに改善を見通し、「タクシー」の業況・売上・採算・資金繰りはいずれも悪化傾向を見通している。

対象企業	107
回答企業	65

自由意見より

- 自由意見より
- 運賃が高すぎる。コストも高くなる。【旅館・ホテル】
- 最悪の1年でした。来年は更に悪くなりそうです。【旅館・ホテル】
- 卸売部門は、在庫転売、利益率改善するも売上高は3割減、サービス部門(ホテル、レストラン)は売上高が1割増加した。【旅館・ホテル】
- 収益を原油高が圧迫しているのが現状で当分それが続くと思われる。早急な政府の対策(暫定税率の廃止、高速道路料金の無条件の引下げ等)が望まれる。【タクシー】
- タクシー用オートカス、軽油の高騰が業界、自社共に大問題である。【タクシー】
- 12/17より運賃改定されたもののLPG単価値上げを力(一)することは難しい。客数は天候のせいもあるのか伸びず低下している。【タクシー】
- 原油高でどうにもならない。【運送】
- 当社は軽油を使う事業所です。この3年余りで1割も値上がりしております。良いはずがありません。【運送】
- 前年の売場期に比べ、軽油単価が20円も上昇し、経営を圧迫している。政府の対応を強く望みます。【運送】
- 軽油高騰。【運送】
- 燃料高騰が経営を圧迫している。【運送】
- 気になるのは燃料費の上昇。来年は光熱費も上がるようだし、どこまで経費上昇するのかわからない。【自動車販売】